



## 短縮ダイヤル

---

- [スピードダイヤルについて](#) (1 ページ)
- [短縮ダイヤルの設定](#) (8 ページ)
- [スピードダイヤルの構成例](#) (20 ページ)
- [次の作業](#) (22 ページ)
- [スピードダイヤルに関する機能情報](#) (22 ページ)

## スピードダイヤルについて

### スピードダイヤルの概要

スピードダイヤルを使用すると、電話機ユーザはリストから番号を簡単にダイヤルすることができます。さまざまなタイプのスピードダイヤルについて、[表 1: スピードダイヤルのタイプ](#) (2 ページ) にまとめます。

表 1:スピードダイヤルのタイプ

スピードダイヤルのタイプ	使用可能な番号	説明	設定方法
ローカルスピードダイヤルメニュー	<p>頻繁に電話をかける番号のシステムレベルのリストです。すべての電話機でプログラム可能です。</p> <p>最大 32 個の番号を定義できます。</p> <p>管理者が XML ファイル speeddial.xml を使用して設定した番号です。このファイルは、Cisco Unified Cisco Mobility Express ルータのフラッシュメモリに配置されます。</p>	<p>ユーザは、IP Phone で [ディレクトリ (Directories) ] &gt; [ローカル短縮ダイヤル (Local Speed Dial) ] メニューからエントリを呼び出します。</p>	<p>国内スピードダイヤルメニューの有効化 (8 ページ)</p>
個人短縮ダイヤルメニュー	<p>スピードダイヤルのエントリは特定の IP Phone に対してローカルなものになります。</p> <p>電話機 1 台あたり最大 24 個の番号を定義できます。</p>	<p>ユーザは、IP Phone の [ディレクトリ (Directories) ] &gt; [ローカルサービス (Local Services) ] &gt; [個人短縮ダイヤル (Personal Speed Dials) ] メニューからエントリを呼び出します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• SCCP 電話機での個人スピードダイヤルメニューの有効化 (10 ページ)</li> <li>• SIP 電話機での個人スピードダイヤルメニューの有効化 (19 ページ)</li> </ul>

スピードダイヤルのタイプ	使用可能な番号	説明	設定方法
スピードダイヤルボタンと短縮ダイヤル	電話機 1 台あたり最大 99 個のスピードダイヤルコード。	<p>IP Phone では、セットアップされた最初のエントリが未使用のすべての回線ボタンに割り当てられ、ユーザがこれらの回線ボタンの 1 つを押したときに呼び出されます。以降のエントリは、電話機ユーザがスピードダイヤルコード (タグ)、および [短縮 (Abbr)] ソフトキーをダイヤルしたときに呼び出されます。</p> <p>(注) スピードダイヤルコード (タグ) をダイヤルして、後続エントリを呼び出す機能および Abbr ソフトキーは、SCCP 電話機のみでサポートされています。</p> <p>アナログ電話ユーザーは、アスタリスクと目的のエントリのスピードダイヤルコード (タグ) 番号を入力してスピードダイヤルを呼び出します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">SCCP 電話機のスピードダイヤルボタンと短縮ダイヤルの定義 (12 ページ)</a></li> <li>• <a href="#">SIP 電話機でのスピードダイヤルボタンの定義 (17 ページ)</a></li> </ul>
Bulk-Loading スピードダイヤル番号	多数のスピードダイヤル番号リストを含むテキストファイルを最大 10 個定義でき、電話機ユーザーがアクセスするフラッシュ、スロット、または TFTP ロケーションにロードすることができます。10 個のファイルに 10,000 個の番号を保持することができます。	<p>電話機ユーザは次のシーケンスでダイヤルします。</p> <p><i>prefix-code list-id index</i> [<i>extension-digits</i>]</p>	スピードダイヤルの一括ロードの有効化 (14 ページ)

スピードダイヤルのタイプ	使用可能な番号	説明	設定方法
スピードダイヤル用モニタ回線ボタン	スピードダイヤルのエント리는特定の IP Phone に対してローカルなものになります。  電話機のモニタ回線と同じ数だけ番号を持つことができます。	モニタ回線として設定されている IP Phone のボタンを使用して、モニタされている回線にスピードダイヤルすることができます。	追加構成は必要ありません。
ダイレクトステーション選択 (DSS) サービス	スピードダイヤル回線またはモニタ回線ボタンが設定されているすべての電話機。	電話機ユーザは、スピードダイヤル回線またはモニタ回線ボタンを1つ押して、コールを高速転送することができます。	DSS サービスの有効化 (9 ページ)

## スピードダイヤルボタンと短縮ダイヤル

Cisco Unified CME システムでは、各電話機に最大 32 個のローカル短縮ダイヤル番号 (コード 1 ~ 32)、最大 99 個のシステムレベルのスピードダイヤル番号 (コード 1 ~ 99)、またはこれら 2 つの番号の組み合わせを持つことが可能です。同じスピードダイヤルコード (タグ) でローカルとシステムレベルの両方のスピードダイヤル番号をプログラムした場合は、ローカル番号が優先されます。通常、コード 1 ~ 32 はローカルの電話機ごとのスピードダイヤル番号用に確保し、コード 33 ~ 99 はシステムレベルのスピードダイヤル番号用に、競合しないようにします。

IP Phone では、スピードダイヤル エントリは未使用の回線ボタンに割り当てられます。すべての回線ボタンが使用されていると、以降のエントリは追加されますが、回線ボタンには割り当てられません。スピードダイヤルエントリは、電話機の物理的なボタンレイアウトとは関係ありません。エントリは、スピードダイヤルタグの順に割り当てられます。

電話機からは変更できない、ロックされている番号を使用して、ローカルなスピードダイヤルコードを作成できます。電話番号のない IP 電話機でも、空のローカルスピードダイヤルコードを作成することができます。これらの空のスピードダイヤルコードは、電話機ユーザが変更して電話番号を追加することができます。

スピードダイヤルエントリへの変更は、タイマーベースの遅延の後でルータの不揮発性ランダムアクセスメモリ (NVRAM) 構成で保存されます。

構成情報については、[SCCP 電話機のスピードダイヤルボタンと短縮ダイヤルの定義 \(12 ページ\)](#) を参照してください。

## Bulk-Loading スピードダイヤル番号

Cisco Unified CME 4.0 以降のバージョンでは、多数のスピードダイヤル番号リストを含むテキストファイルを最大 10 個定義でき、電話機ユーザがアクセスするフラッシュ、スロット、または TFTP ロケーションにロードすることができます。10 個のファイルには合計で、最大 10,000 個の番号を保持できます。各リストには、IP Phone および SCCP 対応のアナログ電話からのダイヤルに適した形式で、番号が保持されます。

最大 10 個のバルクスピードダイヤルリストを作成することができます。このようなリストとしては、社内ディレクトリリスト、地域リスト、ローカルリストなどがあります。これらのリストのスピードダイヤル番号は、システムレベルにする（すべての ephone で使用できるようにする）ことも、個人レベルにする（1 台以上の特定の ephone で使用できるようにする）こともできます。各リストには、0～9 の一意のスピードダイヤルリスト ID 番号 (sd-id) が与えられます。

グローバルなスピードダイヤルリストで使用されないスピードダイヤルリスト ID 番号は、個々の電話機に関連付けられている個人のカスタムリストの識別に使用できます。

バルクスピードダイヤルリストには、スピードダイヤルコード、およびダイヤルするために関連付けられた電話番号のエントリが含まれています。スピードダイヤルリストは、エントリごとに行を分ける必要があります。各エントリのフィールドは、カンマ (,) で区切ります。セミコロン (;) で始まる行は、コメントとして処理されます。各エントリの形式を次の行に示します。

```
index,digits,[name],[hide],[append]
```

表 2: バルクスピードダイヤルリストのエントリ (5 ページ) に、バルクスピードダイヤルエントリのフィールドの説明を示します。

表 2: バルクスピードダイヤルリストのエントリ

フィールド	説明
<i>index</i>	このインデックスエントリを一意に識別する、先行ゼロ付きの番号。最大長：4 桁。インデックスエントリはすべて同じ長さにする必要があります。
<i>digits</i>	ダイヤルする電話番号。完全修飾された E.164 番号を表します。1 秒間の一時停止を表すには、カンマ (,) を使用します。
<i>name</i>	(オプション) 名前を識別するための、最大 30 字の英数字による文字列。
<b>hide</b>	(オプション) ダイヤルした番号を非表示にするには <b>hide</b> と入力します。
<b>append</b>	(オプション) <b>append</b> と入力すると、ダイヤルをした際にこの番号を付加することができます。

以下に、バルクスピードダイヤルリストの例を示します。

```
01,5550140,voicemail,hide,append
90,914085550153,Cisco extension,hide,append
11,9911,emergency,hide,
91,9911,emergency,hide,
08,110,Paging,,append
```

リスト内のスピードダイヤルエントリにコールを発信するには、電話機ユーザは最初にプレフィックスをダイヤルしてから、リストID番号、およびコールするバルクスピードダイヤルリストエントリのインデックスの順にダイヤルする必要があります。

構成情報については、[スピードダイヤルの一括ロードの有効化（14ページ）](#)を参照してください。

## スピードダイヤル用モニタ回線ボタン

Cisco Cisco Mobility Express 3.2 以降のバージョンでは、監視回線ボタンを使用して、監視回線の番号にスピードダイヤルできます。モニタ回線とは、2人のユーザが共有する回線です。共有回線では、一度に一方のユーザだけが発信および受信できます。このときもう一方のユーザは自分の回線がモニタモードになるため、回線が使用中であることがわかります。スピードダイヤルは、監視回線ランプがオフの場合に利用できます。オフとは、その回線が使用されていないことを示します。たとえば、マネージャと話したいアシスタントが、小用している満之回線ボタンを押すと、マネージャの番号にスピードダイヤルされます。

モニタ回線ランプがオフ（消灯）になるのは、その回線がアイドルコール状態のときだけです。アイドル状態になるのは、コールの発信前、およびコールの完了後です。それ以外のコール状態では、モニタ回線ランプがオン（点灯）になります。

次の例は、モニタ回線の設定を示しています。内線番号2311は、マネージャの回線で、ephone 1は、マネージャの電話機です。マネージャのアシスタントは、ephone 2のボタン2の内線番号2311を監視します。マネージャが回線を使用すると、アシスタントの電話機のランプが点灯します。ランプが点灯していない場合は、アシスタントはボタン2を押して、マネージャの番号をスピードダイヤルすることができます。

```
ephone-dn 11
  number 2311

ephone-dn 22
  number 2322

ephone 1
  button 1:11

ephone 2
  button 1:22 2m11
```

モニタされている回線がアイドルコール状態の場合に、電話機ユーザが、モニタされている共有回線の番号をスピードダイヤルできるようにするための追加設定は不要です。

## DSS（ダイレクトステーション選択）サービス

Cisco Unified CME 4.0(2)以降のバージョンでは、DSS（ダイレクトステーション選択）サービス機能を使用すると、コールが接続状態のときに、電話機ユーザはスピードダイヤル回線ボタンを1回押して、着信コールを転送できます。この機能は、スピードダイヤル用のモニタ回線ボタンまたはスピードダイヤル回線ボタンが設定されている、すべての電話機でサポートされます。

DSS サービスが有効になっていると、シミュレートした転送キーイベントを、システムが必要に応じて自動的に生成し、電話機ユーザが [転送 (Transfer)] ボタンを押す必要がなくなります。

このサービスを無効にすると、すべての IP Phone でスピードダイヤル回線ボタンの動作が変化し、接続されたコールの途中でユーザがスピードダイヤルボタンを押すと、コールは転送されず、スピードダイヤル番号のダイヤルトーンが相手に聞こえます。DSS サービスが無効になっている場合、電話機ユーザが着信コールを転送するには、最初に転送ボタンを押してから、モニタまたはスピードダイヤル回線ボタンを押す必要があります。

構成情報については、[国内スピードダイヤルメニューの有効化（8 ページ）](#)を参照してください。

## スピードダイヤルおよびファストダイヤル用の電話機ユーザインターフェイス

Cisco Unified CME 4.3 以降のバージョンでは、IP Phone ユーザは、独自のスピードダイヤルおよびファストダイヤル設定を電話機で直接設定できます。[サービス (Services)] 機能ボタンに用意されたメニューを使用すると、電話機上でスピードダイヤルおよびファストダイヤルの設定を追加または変更できます。エクステンションモビリティユーザは、ログイン後ユーザプロフィールでスピードダイヤル設定を追加または変更できます。エクステンションモビリティ電話機では、ファストダイヤル設定は変更できません。また、電話機からログアウトプロフィールも構成できません。

Unified Cisco Mobility Express のスピードダイヤルおよびファストダイヤル機能により、電話機ユーザは、スピードダイヤルとファストダイヤル設定を電話機から直接設定できるようになります。

スピードダイヤルおよびファストダイヤルのユーザインターフェイスは、ディスプレイを持つすべての電話機で、デフォルトで使用できます。Cisco Unified CME で、電話機ユーザがインターフェイスにアクセスしないように、個々の電話機でこの機能を無効にすることができます。電話機のスピードダイヤルまたはファストダイヤルの設定が ephone-template で設定されている場合、電話機からの設定は特定の電話機のみにも適用され、ephone-template の設定は変更されません。

構成情報については、[スピードダイヤルとファストダイヤルの構成用電話機ユーザインターフェイスの有効化（16 ページ）](#)を参照してください。

電話機ユーザは、電話機のユーザインターフェイスを使用して [スピードダイヤル (Speed-Dial)] および [ファストダイヤル (Fast-Dial)] ボタンを構成する方法については、

Cisco Unified Cisco Mobility Express の「[Cisco Unified IP Phone マニュアル](#)」を参照してください。

## 短縮ダイヤルの設定

### 国内スピードダイヤルメニューの有効化

Cisco Unified CME で、すべての電話機（SCCP および SIP）に対してローカル短縮ダイヤルメニューを有効にするには、次の手順を実行します。



#### 制約事項

- エントリで名前やテンプレート番号が不足しているなど、speed dial XML ファイルに含まれた情報が不完全な場合に、ローカル短縮ダイヤルのディレクトリ オプションが電話機で使用されていると、ファイル内で不足しているエントリの後にリストされた情報がすべて表示されなくなります。
- Cisco Unified CME 4.1 よりも前は、SIP 電話機でローカル短縮ダイヤルメニューがサポートされていませんでした。
- Cisco CME 3.3 よりも前は、アナログ電話機で使用できるスピードダイヤルの番号が 9 個に制限されていました。

#### 始める前に

speeddial.xml という XML ファイルを作成し、Cisco Unified CME ルータの TFTP サーバアプリケーションにコピーしておく必要があります。speeddial.xml の内容は、シスコが指定したディレクトリ DTD の定義に従った有効なものにする必要があります。「[国内スピードダイヤルメニューの有効化例 \(20 ページ\)](#)」および「[Cisco Unified IP Phone サービスアプローチ開発ノート](#)」を参照してください。

#### 手順の概要

1. **enable**
2. **copy tftp flash**
3. **configure terminal**
4. **ip http server**
5. **ip http path flash:**
6. **exit**



## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： <pre>Router# enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。</li> </ul>
ステップ 2	<b>copy tftp flash</b> 例： <pre>Router# copy tftp flash Address or name of remote host []? 172.24.59.11 Source filename []? speeddial.xml Destination filename [speeddial.xml]? Accessing tftp://172.24.59.11/speeddial.xml...  Erase flash:before copying? [confirm]n Loading speeddial.xml from 172.24.59.11 (via FastEthernet0/0):! [OK - 329 bytes]  Verifying checksum... OK (0xF5DB) 329 bytes copied in 0.044 secs (7477 bytes/sec)</pre>	TFTP サーバからルータのフラッシュ メモリにファイルをコピーします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最初のプロンプトで、リモートホストの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。</li> <li>• 両方のファイル名プロンプトで、<b>speeddial.xml</b> と入力します。</li> <li>• フラッシュの消去を求めるプロンプトで、<b>no</b> と入力します。</li> </ul>
ステップ 3	<b>configure terminal</b> 例： <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル構成モードを開始します
ステップ 4	<b>ip http server</b> 例： <pre>Router(config)# ip http server</pre>	ルータで Cisco Web ブラウザユーザインターフェイスを有効にします。
ステップ 5	<b>ip http path flash:</b> 例： <pre>Router(config)# ip http path flash:</pre>	基本の HTTP パスをフラッシュ メモリに設定します。
ステップ 6	<b>exit</b> 例： <pre>Router(config)# exit</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。

## DSS サービスの有効化

スピードダイヤル用のモニタ回線ボタン、またはスピードダイヤル回線ボタンが設定されているすべての SCCP 電話機で DSS サービスを有効にするには、次の手順を実行します。

始める前に

Cisco Unified CME 4.0(2) 以降のバージョン。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **telephony-service**
4. **service dss**
5. **end**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	<b>telephony-service</b> 例： Router(config)# telephony-service	telephony-service コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>service dss</b> 例： Router(config-telephony)# service dss	Cisco Unified CME で、すべての電話機ユーザに対して DSS (ダイレクトステーション選択) サービスをグローバルに設定します。
ステップ 5	<b>end</b> 例： Router(config-telephony)# end	コンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

## SCCP 電話機での個人スピードダイヤルメニューの有効化

個人短縮ダイヤルメニューを有効にするには、次の手順を実行します。



#### 制約事項

- 個人短縮ダイヤルメニューを使用できるのは、Cisco Unified IP Phone 7940、7960、7960G、7970G、および 7971G-GE のみです。ご使用の IP Phone でスピードダイヤルメニューがサポートされているかどうかを確認するには、その IP Phone モデルの『[Cisco Unified Cisco Mobility Express ユーザーガイド](#)』を参照してください。

## 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone** *phone-tag*
4. **fastdial** *dial-tag number name name-string*
5. **end**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router# enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	<b>ephone</b> <i>phone-tag</i> 例： Router(config)# ephone 1	ephone コンフィギュレーション モードを開始します。  • <i>phone-tag</i> —スピードダイヤル番号をプログラムする電話機の一意的番号。
ステップ 4	<b>fastdial</b> <i>dial-tag number name name-string</i> 例： Router(config-ephone)# <b>fastdial 1 5552 name Sales</b>	この電話機に個人短縮ダイヤル番号のエントリを作成します。  • <i>dial-tag</i> —構成時にこのエントリを識別する固有識別子。範囲は 1 ~ 100 です。  (注) 10.5 より前の Cisco Unified Cisco Mobility Express バージョンでは、 <i>dial-tag</i> の範囲は 1 ~ 24 です。  • <i>number</i> —ダイヤルする電話番号または内線番号。  • <i>name name-string</i> — [個人スピードダイヤル (Personal Speed Dial) ] メニューに表示されるラベル。これには、24 文字までの英数字の文字列が含まれます。個人短縮ダイヤルは、XML 要求を通じて処理されます。そのため、アンパサンド (&)、パーセント記号 (%)、セミコロン (;)、山カッコ (<>)、縦棒 (  ) など、HTTP に対して特別な意味を持つ文字は使用できません。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<b>end</b> 例： Router(config-ephone)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

## SCCP 電話機のスピードダイヤルボタンと短縮ダイヤルの定義

スピードダイヤルボタンと短縮ダイヤルコードを定義するには、設定対象のスピードダイヤルの定義ごとに、次の手順を実行します。



### 制約事項

- [短縮 (Abbr) ]ソフトキーを使用したオンフック短縮ダイヤル機能がサポートされるのは、次の電話機のみです。
  - Cisco Unified IP Phone 7905G
  - Cisco Unified IP Phone 7912G
  - Cisco Unified IP Phone 7920G
  - Cisco Unified IP Phone 7970G
  - Cisco Unified IP Phone 7971G-GE
- システムレベルのスピードダイヤルコードは、電話機ユーザが電話機で変更することはできません。
- Cisco CME 3.3 よりも前は、アナログ電話機で使用できるスピードダイヤルの番号が 9 個に制限されていました。
- Cisco CME 3.3 よりも前は、電話機で使用できる物理的なボタンの数を超えるスピードダイヤルエンタリは、IP Phone で無視されました。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone phone-tag**
4. **speed-dial speed-tag digit-string [label label-text ]**
5. **restart**
6. **exit**
7. **telephony-service**
8. **directory entry { {directory-tag number name name} | clear }**
9. **end**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	<b>ephone phone-tag</b> 例： Router(config)# ephone 55	ephone コンフィギュレーション モードを開始します。  • <i>phone-tag</i> — スピードダイヤル機能を追加する電話機を識別する一意のシーケンス番号。
ステップ 4	<b>speed-dial speed-tag digit-string [label label-text]</b> 例： Router(config-ephone)# speed-dial 1 +5001 label "Head Office"	一意のスピードダイヤルID、ダイヤルする数字列、およびボタンの横に表示するオプションのラベルを定義します。  • <i>speed-tag</i> — スピードダイヤル定義の識別子。範囲は、1 ~ 33 です。
ステップ 5	<b>restart</b> 例： Router(config-ephone)# restart	この ephone の高速リブートを実行します。DHCP または TFTP サーバに接続して、最新情報を取得することは行われません。
ステップ 6	<b>exit</b> 例： Router(config-ephone)# exit	コンフィギュレーション モードを終了して、コンフィギュレーションモード階層で次に高いレベルのモードを開始します。
ステップ 7	<b>telephony-service</b> 例： Router(config)# telephony-service	telephony-service コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	<b>directory entry { {directory-tag number name name}   clear }</b> 例： Router(config-telephony)# directory entry 45 8185550143 name Corp Acctg	システムレベルのディレクトリとスピードダイヤルの定義を追加します。  • <i>directory-tag</i> このエントリの固有識別子となる数字列。範囲は 1 ~ 99 です。  <b>speed-dial</b> コマンドを使用して、同じタグ 1 ~ 33 が電話機レベルで構成され、このコマンドを使用してシステムレベルでも構成されている場合は、ローカル定義が優先されます。この競合を防止するには、

	コマンドまたはアクション	目的
		システムレベルのスピードダイヤル番号には34～99のコードだけを使用することを推奨します。
ステップ9	<b>end</b> 例： Router(config-telephony)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

## スピードダイヤルの一括ロードの有効化

Bulk-Loading スピードダイヤル番号を有効にするには、次の手順を実行します。



**制約事項**      • バルク スピードダイヤルは、FXO トランク回線でサポートされません。

### 始める前に

- Cisco Unified CME 4.0 以降のバージョン。
- リストが格納されたバルク スピードダイヤルテキストファイルは、Cisco Unified CME ルータからアクセス可能な場所（フラッシュ、スロット、または TFTP ロケーション）で使用可能な状態になっていること。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **telephony-service**
4. **bulk-speed-dial list list-id location**
5. **bulk-speed-dial prefix prefix-code**
6. **end**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<b>telephony-service</b> 例： Router(config)# telephony-service	telephony-service コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>bulk-speed-dial list list-id location</b> 例： Router(config-telephony)# bulk-speed-dial list 6 flash:sd_dept_0_1_8.txt	一括スピードダイヤルリストの場所を指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>list-id</i>— 使用するリストを識別する数字。範囲は 0～9 です。</li> <li>• <i>location</i>— URL フォーマットによる一括スピードダイヤルファイルの場所。有効な保存場所は、TFTP、スロット 0/1、およびフラッシュメモリです。</li> </ul> <p>特定の電話機に対して、ephone コンフィギュレーションモードでこのコマンドを設定することもできます。</p>
ステップ 5	<b>bulk-speed-dial prefix prefix-code</b> 例： Router(config-telephony)# bulk-speed-dial prefix #7	電話機ユーザがバルク スピードダイヤルリストからスピードダイヤル番号にアクセスするときにダイヤルする、プレフィックスコードを設定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>prefix-code</i>— スピードダイヤル用の 1～2 文字のアクセスコード。有効な文字は、0～9 の数字、アスタリスク (*)、およびシャープ記号 (#) です。デフォルトは # です。</li> </ul>
ステップ 6	<b>end</b> 例： Router(config-telephony)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

## SCCP 電話機での一括スピードダイヤルパラメータの確認

### show telephony-service bulk-speed-dial

このコマンドを使用して、スピードダイヤルリストの情報を表示します。

例：

```
Router# show telephony-service bulk-speed-dial summary
```

```

List-id   Entries   Size      Reference url
-----
0         40        3840     Global   tftp://192.168.254.254/phonedirs/ uut.csv
1         20        1920     Global   phoneBook.csv
8         15        1440     Global   tftp://192.168.254.254/phonedirs/big.txt
9         20        1920     Global   tftp://192.168.254.254/phonedirs/phoneBook.csv
6         24879    2388384  ephone-2 tftp://192.168.254.254/phonedirs/big.txt1

```

```

7          20          1920    ephone-2    phoneBook.csv
6         24879       2388384    ephone-3    big.txt1
7          20          1920    ephone-3    phoneBook.csv

```

```
4 Global List(s) 4 Local List(s)
```

## スピードダイヤルとファストダイヤルの構成用電話機ユーザーインターフェースの有効化

電話機ユーザが自分の電話機のメニューからスピードダイヤルおよびファストダイヤルの番号を設定できるようにするには、次の手順を実行します。この機能は、デフォルトで有効にされています。この作業を実行する必要があるのは、この機能が電話機で無効になっている場合のみです。



**制約事項** エクステンション モビリティ ユーザは、自分の電話機から（個人短縮ダイヤルに対して）ファストダイヤルを設定できません。

### 始める前に

- Cisco Unified CME 4.3 以降のリリース。
- サービス URL が設定されていること。「[SCCP 電話機の機能ボタン用 URL のプロビジョニング](#)」を参照してください。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone *phone-tag***
4. **phone-ui speeddial-fastdial**
5. **end**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router# enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例：	グローバル構成モードを開始します。



	コマンドまたはアクション	目的
	Router# configure terminal	
ステップ 3	<b>ephone phone-tag</b> 例： Router(config)# ephone 12	ephone コンフィギュレーション モードを開始します。 • <i>phone-tag</i> — 構成タスク中にこの ephone を識別する一意の番号。
ステップ 4	<b>phone-ui speeddial-fastdial</b> 例： Router(config-ephone)# phone-ui speeddial-fastdial	電話機ユーザが、自分の電話機からスピードダイヤルおよびファストダイヤルの番号を設定できるようにします。 • このコマンドは、デフォルトで有効になっています。
ステップ 5	<b>end</b> 例： Router(config-ephone)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

#### 次のタスク

UI を使用して、電話機ユーザがスピードダイヤルおよびファストダイヤル ボタンを構成する方法の詳細については、Cisco Unified Cisco Mobility Express 用の「[Cisco Unified IP Phone 文書](#)」を参照してください。

## SIP 電話機でのスピードダイヤルボタンの定義

Cisco SIP IP Phone のスピードダイヤルボタンを定義するには、次の手順を実行します。



#### 制約事項

- Cisco Unified IP Phone 7960 および 7940 などの特定の SIP 電話機は、スピードダイヤルを有効化するように構成できません。これらの電話機のユーザは、Cisco Unified IP Phone のユーザ インターフェイスを使用して、スピードダイヤル番号を手動で設定する必要があります。
- Cisco Unified IP Phone では、スピードダイヤルの定義は、実際の内線番号に割り当てられていない、使用可能なボタンに割り当てられます。スピードダイヤル定義は、その ID 番号順に割り当てられます。
- Cisco ATA デバイスが搭載された電話機では、使用できるスピードダイヤル番号の数が 9 個に制限されます。電話機のユーザ インターフェイスを使用して、スピードダイヤルの番号をプログラムすることはできません。

## 始める前に

Cisco CME 3.4 以降のバージョン。

## 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice register pool *pool-tag***
4. **speed-dial *speed-tag digit-string* [*label label-text*]**
5. **end**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router# enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	<b>voice register pool <i>pool-tag</i></b> 例： Router(config)# voice register pool 23	音声レジスタ プール コンフィギュレーション モードを開始して、指定した SIP 電話機にパラメータを設定します。
ステップ 4	<b>speed-dial <i>speed-tag digit-string</i> [<i>label label-text</i>]</b> 例： router(config-register-pool)# speed-dial 2 +5001 label "Head Office"	Cisco Unified CME で、SIP 電話機、またはアナログアダプタ (ATA) を使用するアナログ電話機に対して、スピードダイヤルの定義を作成します。  • <i>speed-tag</i> —構成中にスピードダイヤル定義を識別する一意のシーケンス番号。範囲は 1～5 です。
ステップ 5	<b>end</b> 例： Router(config-register-pool)# end	コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

## 例

次の例は、本社の内線 5001 にダイヤルするようスピードダイヤルボタン 2 を設定し、電話機ユーザが電話機で設定を変更できないように設定をロックする方法を示しています。

```
Router(config)# voice register pool 23
Router(config-register-pool)# speed-dial 2 +5001 label "Head Office"
```

## SIP 電話機での個人スピードダイヤルメニューの有効化

個人短縮ダイヤルメニューを有効にするには、次の手順を実行します。



### 制約事項

- 個人スピードダイヤルメニューは、7811、7821、7841、7861、8841、8861 などの特定の Cisco Unified IP Phone でのみ使用できます。ご使用の IP Phone でスピードダイヤルメニューがサポートされているかどうかを確認するには、その IP Phone モデルの「[Cisco Unified Cisco Mobility Express ユーザーガイド](#)」を参照してください。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice register pool** *pool-tag*
4. **fastdial** *entry-tag number name name-string*
5. **end**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router# enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	<b>voice register pool</b> <i>pool-tag</i> 例： Router(config)# voice register pool 1	音声登録プール構成モードを開始します。  • <b>pool-tag</b> — 個人スピードダイヤル番号をプログラムする電話機の一意の番号。
ステップ 4	<b>fastdial</b> <i>entry-tag number name name-string</i> 例： Router(config-register-pool)# <b>fastdial</b> 1 5552 <b>name Sales</b>	この電話機に個人短縮ダイヤル番号のエントリを作成します。  • <b>entry-tag</b> — 構成時にこのエントリを識別する固有識別子。範囲は 1 ~ 100 です。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>(注) 10.5 以前の Cisco Unified Cisco Mobility Express バージョンの場合、entry-tag の範囲は 1 ~ 24 です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>number</b>— ダイヤルする電話番号または内線番号。</li> <li>• <b>name name-string</b> — [個人スピードダイヤル (Personal Speed Dial) ]メニューに表示されるラベル。これには、24 文字までの英数字の文字列が含まれます。個人短縮ダイヤルは、XML 要求を通じて処理されます。そのため、アンパサンド (&amp;)、パーセント記号 (%)、セミコロン (;)、山カッコ (&lt;&gt;)、縦棒 (  ) など、HTTP に対して特別な意味を持つ文字は使用できません。</li> </ul>
ステップ 5	<b>end</b> 例 : <pre>Router(config-register-pool)# end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。

## スピードダイヤルの構成例

### 国内スピードダイヤルメニューの有効化例

次のコマンドでは、Cisco Web ブラウザを有効にして、HTTP パスをフラッシュメモリに設定し、フラッシュメモリ内の speeddial.xml ファイルに IP Phone がアクセスできるようになります。

```
ip http server
ip http path flash:
```

次の XML ファイル (speeddial.xml) は、ユーザが IP Phone で [ディレクトリ (Directories) ] ボタンを押した後に表示される 3 つのスピードダイヤル番号を定義します。

```
<CiscoIPPhoneDirectory>
<Title>Local Speed Dial</Title>
<Prompt>Record 1 to 1 of 1 </Prompt>

<DirectoryEntry>
  <Name>Security</Name>
  <Telephone>71111</Telephone>
</DirectoryEntry>

<DirectoryEntry>
```

```
<Name>Marketing</Name>
<Telephone>71234</Telephone>
</DirectoryEntry>

<DirectoryEntry>
  <Name>Tech Support</Name>
  <Telephone>71432</Telephone>
</DirectoryEntry>

</CiscoIPPhoneDirectory>
```

## SIP 電話機での個人短縮ダイヤルメニューの構成例

次の例では、1台の IP Phone に3つの個人短縮ダイヤルリストを持つディレクトリを作成します。

```
ephone 1
  fastdial 1 5489 name Marketing
  fastdial 2 12125550155 name NY Sales
  fastdial 3 12135550112 name LA Sales
```

## スピードダイヤルボタンと短縮ダイヤルの構成例

次の例では、ephone 1 のスピードダイヤルボタンの隣に表示されるラベル付きの2つのロックされたスピードダイヤル番号を定義します。これらのスピードダイヤル定義は、内線番号がすべて割り当てられた後で、次の空のボタンに割り当てられます。たとえば、Cisco Unified IP Phone 7960 および 7960G で2つの内線番号が割り当てられている場合、これらのスピードダイヤル定義は3番めと4番めのボタンに表示されます。

この例では、**directory entry** コマンドを使用して、2つのシステムレベルのスピードダイヤル番号を定義します。1つはローカル内線番号で、もう1つは10桁の電話番号です。

```
ephone 1
  mac-address 1234.5678.ABCD
  button 1:24 2:25
  speed-dial 1 +5002 label Receptionist
  speed-dial 2 +5001 label Security

telephony-service
  directory entry 34 5003 name Accounting
  directory entry 45 8185550143 name Corp Acctg
```

## 一括ロードスピードダイヤルの構成例

次の例では、バルクスピードダイヤルのデフォルトのプレフィックスを#7に変更し、グローバルなバルクスピードダイヤルリスト番号6をすべての電話機に対して有効にします。また、ephone 25 の個人用一括スピードダイヤルリストも有効にします。

```
telephony-service
  bulk-speed-dial list 6 flash:sd_dept_01_1_87.txt
  bulk-speed-dial prefix #7

ephone-dn 3
  number 2555
```

```
ephone-dn 4
  number 2557

ephone 25
  button 1:3 2:4
  bulk-speed-dial list 7 flash:lmi_sd_list_08_24_95.txt
```

## スピードダイヤルとファストダイヤルユーザーインターフェースの構成例

次の例は、スピードダイヤルおよびファストダイヤルに対するユーザーインターフェースの設定が、電話機 12 で無効になっていることを示しています。

```
ephone 12
  no phone-ui speeddial-fastdial
  ephone-template 5
  mac-address 000F.9054.31BD
  type 7960
  button 1:10 2:7
```

## 次の作業

個々の電話機のスピードダイヤル構成の作成または変更が終了したら、電話機を再起動して、変更した構成をダウンロードする必要があります。「[Cisco Unified IP Phone のリセットと再起動](#)」を参照してください。

### DSS コール転送

モニタ回線ボタンのスピードダイヤル（ダイレクトステーション選択（DSS）コール転送とも呼ばれる）を使用すると、モニタされている回線ボタンを使用して、その内線番号にスピードダイヤルすることができます。DSS 転送中のコンサルテーションを許可する場合は、「[Call Transfer と Call Forward について](#)」を参照してください。

## スピードダイヤルに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、[Cisco Feature Navigator](#) を使用します。[Cisco Feature Navigator](#) にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 3: スピードダイヤルに関する機能情報

機能名	Cisco Unified Cisco Mobility Express のバージョン	機能情報
スピードダイヤル	4.3	SCCP 電話機に、スピードダイヤルおよびファストダイヤルをプログラミングするためのユーザインターフェイスが追加されました。
	4.1	Cisco Unified CME 内の SIP 電話機に対する、ローカルおよび個人短縮ダイヤルメニューのサポートが追加されました。
	4.0(2)	電話機ユーザが、スピードダイヤル回線またはモニタ回線ボタンを1つ押して、コールを高速転送することができる、DSS サービスのサポートが追加されました。
	4.0	Cisco Unified CME 内の SCCP 電話機に対する、バルクスピードダイヤルリストのサポートが追加されました。
	3.4	Cisco Unified CME 内の SIP 電話機に対する、スピードダイヤルボタンのサポートが追加されました。
	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified Cisco Mobility Express の SCCP 電話機の個別スピードダイヤルへのサポートを追加しました。</li> <li>• 作成可能なスピードダイヤル定義の数が、4 から 33 に増えました。</li> <li>• 電話機でスピードダイヤル番号をプログラムする機能が導入されました。</li> <li>• スピードダイヤル番号をロックする機能が導入されました。</li> </ul>
	1.0	<b>speed-dial</b> コマンドを使用したスピードダイヤルが導入されました。





## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。